

作品名	ボルト切り替えレバー	アピールポイント
		確実に

作品概要 製品に締付けるボルトを取るが、必要以上に取れてしまい取りすぎたボルトは箱に戻す[△]な作業発生していた。そこで、トイレのレバー動作をヒントとし必要本数が出る切出し機を考案し[△]を無くした。私たちの工場では一つの工程で締付ける本数が多いため一つの可変式装置で2本・4本を取出す装置を製作しました。

改善前

《ボルト締め付け作

1. ボルトを取
大体の数を取り出す

2. 本数を数える
手（目視）で数える

毎サイクル置き場からボルト取出し、製品に締付ける

余分を取る→戻す

問題点

手作業による戻し作業の△ダ工数が発生！！

着眼点	少ない時は小（右）に多い時は大（左）に移動させられ『トイレのレバー』をヒントに考案	作品区分	作品の種類
		自社開発機器	改善現物
		動力源	力の伝達機構
		人の力	斜面

改善後

正面写真

正面図

レバーを上げることでボルトが滑り出す

上面図

左レバー 右レバー

側面写真

側面図

◆員数管理の工夫点

こだわり

昇降部

前後異なる形状

2個の時

4個の時

工夫点

①ボルトの取出し方法をレバー式にした
②前後の昇降部を異なる形状にし
左右のレバーでボルトの取出し数を変えた

効果 ◆ボルト取出し作業時間の低減
0.03分/台 × 408000台（年間生産台数） × 30円/分 年間効果金額 367千円/年間